

農業委員会からのお知らせ

11月8日、パルセイイざか（福島市）で行われた「第57回福島県下農業委員大会」において、福島県農業会議会長表彰が行われ、本村からは前農業委員会長を務めた北原経さんが永年勤続農業委員として受賞しました。

北原さんは、平成11年から24年までの13年間農業委員を務め、うち平成17年から21年までの4年間は農業委員会長を務めました。受賞を受けた北原さんは「震災前は遊休農地や荒廃地をいかに再生・興隆するかに力を入れてきました。委員を辞めても新たに村の農地を再生し作物が作れるよう努めていきたいと思っています。」と話していました。



▲表彰を受けた北原さん

11/8

前農業委員会 北原経さんに表彰

11/15

農業委員会が建議書 提出



▲建議書提出に訪れた委員
(左から鈴木秀範委員、坂本栄寿委員、古川良一職務代理者、菅野宗夫会長)

村農業委員会は、飯野出張所において、徹底した除染と村への帰村、復興・復旧についての建議書を菅野村長に提出しました。

今回の建議では、本村農業の復旧・復興に向けた対策を早期に図るよう要望するもので、「農業の再生なくして帰村なし」を基本に、除染と並行して土地改良など農地利用を含めた農業再生の短期・長期のビジョンを早急に樹立することなど7項目について建議しました。

こころの ぽけっと

「特別な力」

今から約11年前の9月11日、アメリカで同時多発テロが起きました。その後、結婚するカップルが増えたそうです。「テロの時、一人暮らしでも不安だったので」「あの時しみじみ語れる家族が欲しいと思った」「あつこいよかったです。」「あつこい時、家族は特別な力になるということでありました。」「地位や名譽、財産の全てを手に入れたら、心はいつも孤独だったので。」「つまり人間の幸せは大切な人、身近な人と一緒にいて、泣いたり笑ったりするところにあるのかもしれない。」「共感してくれる人がそばにいてくれる、それだけで人は勇気ももらい、生きる力になりうるということではないでしょうか。」

テロから11年後の3月11日、日本は大地震、大津波そして原発事故に遭ってしまいました。私たち村民は全村避難を余儀なくされ、1700世帯が3100世帯になりました。ひとつ屋根の下で寝食を共にする家族には強い絆が結ばれ、その「揺るぎなさ」が人の心のよりどころになり、支えにもなります。残念ながらひとつ屋根の下とはいかない家族が増えてしまったのですが、できるだけ電話をかけたたり会ったり食事をしたりなど心をつなぐ努力をしてみたいと思っています。

幸せの多くは人とのつながりであり、弱い自分に特別な力をくれるのは家族なのですから……

平成24年11月26日 飯館村長 菅野 典雄



▲協定を取り交わし、握手を交わす菅野村長（右）と瀬戸市長

村と福島市は、11月6日に福島市役所において「『いいたてまでいな復興計画』に基づく帰村のための取り組みへの支援に関する協定書」に調印しました。これは、村民の半数以上が避難する福島市において、村と福島市が相互理解のもと、避難生活の支援や帰村のために村が行う復興計画に基づく事業に対し、法的手続きの迅速化や、周辺住民への説明、住民同士の交流などを行うために協定を取り交わしたものです。

この協定により、村は村外の子育て拠点（仮称）整備のための取り組みとして、福島市飯野町に復興公営住宅や学校給食センターの整備などを進めます。

主な支援対象事業

村外子育て拠点（仮称）の整備

復興公営住宅整備
コミュニティ拠点整備
屋外キッズガーデン整備
学校給食センター整備

避難中の村民の就業支援

村外営農支援
就労支援

相互心づかい事業

住民相互の心をつなぎながら、教育・文化・スポーツ・健康づくりなどを通して思いやりの関係をつくる



▲村外復興公営住宅の建設予定地（福島市飯野町）

住民意向調査にご協力ください

村では、国・県の協力により、村民の皆さんの避難生活の現状や村が今後建設を検討している復興公営住宅に対する意向を把握するため、郵送による意向調査を行っています。皆さんからいただいた回答をもとに、復興に向けた取り組みを推進してまいります。

郵送でお届けした調査票は、ご記入の上**12月14日(金)までに**ポストに投函してください。

お問い合わせ 総務課企画係 ☎024-562-4246

福島市と協定を結びました 復興計画の実現に向けて